

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>グルーホームすえひろの理念は、職員全体で考えた理念であり、家庭的な環境と地域住民との交流の下で、一人ひとりが安らぎのある暮らしと、その人らしき生き方を大切に考え、地域密着型サービスの理念として作り上げている。</p>		
<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>理念は職員全体が良く理解しており、管理者と職員は常に意識しながら話し合い、理念に基づいたサービスに取り組んでいる。職員会議やユニット会議で理念を話し合い理念に沿っているか話し合っている。また、理念は誰でもすぐ分かるように正面玄関に掲示している。</p>		
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>家族や地域の方々には、毎月発行する「すえひろ新聞」でホームの様子や理念を伝えている。年に一度、今金町民文化祭へも利用者の作品や日頃の様子を紹介するコーナーをも設けて町民に理解してもらっている。また、すえひろの職員による認知症サポート養成講座の講師として、認知症の理解を深めてもらう努力をしている。</p>		
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>運営者及び管理者は常に職員に対し、近所の人との交流や挨拶を大切にするように指導しており、職員も隣近所の人に気軽に声をかけている。また、近所のお年寄りが立ち寄り、一緒に散歩をしたりお茶やおやつを一緒に楽しんでいる。ホームで飼っている犬の散歩を近所の子供たちがしてくれたり、近隣の人たちも顔を覚えてくれていて馴染みの関係を築いている。</p>		
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>ホームでは、すえひろ夏祭りを開催しており、近所の人たちも参加してくれている。町内の行事(末広七夕まつり、八幡宮祭典、商工会のイベント等)にも積極的に参加したり、地域の方々からイベントの招待の案内もいただいている。イベントの出店から買物をして皆で食べたりしている。</p>		
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>今金町認知症高齢者家族介護の会へ参加したり、認知症サポート養成講座の講師をするなど、事業所内で培った経験を活かし地域活動へ参加している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>自己評価は、運営者、管理者、職員全員が参加し、評価の意義を理解しそれぞれに自己評価し、それを基に全員で評価内容を検討している。その中で改めてサービスの質の内容を確認し、日頃のケアに前向きに活かしている。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>運営推進会議では評価の取り組み状況や、日頃のホーム様子を具体的に報告し、メンバーから色々な意見をいただき、サービスの質の向上を図っている。</p>	○	運営推進委員会の開催回数を増やしていきたい。
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>運営者及び管理者は、今金町保健福祉課や社会福祉協議会、地域包括支援センターと日頃から行き来しており、ホームの様子や運営の実態を伝えるなど、相談や指導を常に受けている。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>ホームの利用者の中には制度の必要な方はいないが、勉強会等で権利擁護に関する制度の勉強や話し合いを行っている。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p> <p>身体拘束委員会を設置し、運営者及び管理者は常に職員に虐待防止に関することについて話し合い、徹底防止に努めている。また、職員が虐待防止に関する研修会へ参加して内容について共有している。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>契約や解約時は、利用者及び家族と十分に話し合い不安や疑問がないか確認し、また、利用者や家族が話しやすい環境づくりをしている。また、契約前や解約後のフォローも大切にしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	管理者や職員は常に利用者と馴染みの関係を築いており、利用者からの意見や不満、苦情を受け入れ職員会議等で改善するように取り組んでいる。また、運営推進会議に利用者の代表も参加しており外部者へ意見や不満を訴える機会を設けている。訴えていることに関してはすぐに解決につながるように対応している。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	利用者の普段の様子については、月1回発行する「すえひろ新聞」で報告している。健康状態や金銭管理等については面会の際に報告し、金銭管理については、その時に確認のサインをいただいている。遠方の家族で面会の少ない家族には電話で報告している状況であるが、今後、定期的な個々に合わせた報告が必要である。体調不良や救急時はすぐに家族に報告している。	○	家族等の安心確保のために、健康状態や金銭管理等について定期的な報告を行う。また、本人や家族等の状況に合わせた個別の報告も行っていく。
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	管理者と職員は日頃から面会時のコミュニケーションづくりや、家族から色々な意見や不満等を聞き入れる体制や雰囲気づくりをしている。また、運営推進会議へも家族の代表を入れており外部者へも意見や不満を表せる機会を設けている。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	運営者及び管理者は日頃から職員とのコミュニケーションを十分にとり、職員から気軽に意見や要望を聞く職場環境づくりをしている。運営者は日々ホームに足を運び管理者や職員との対話を大事にするなど、職員を意見を聞きサービスの質の向上に努めている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	都度、利用者や家族の状況にそったサービスを提供するために、運営者、管理者や職員と話し合い、また、フリーにパート職員4名を確保しており、臨機応変な対応ができる体制を作っている。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	運営者は職員の離職等で職員の交替や異動がないよう働きやすい職場環境づくりに配慮している。移動の際は、家族や利用者者に詳細に説明し、利用者等が混乱を招かないように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>運営者及び管理者は、計画的に職員の研修に参加できる環境づくりに努め、職員の希望を受け入れ事業外の研修に積極的に参加させている。職員においても自らの職務年数と技術に応じ、各種資格の取得に努め「働きながら学ぶ」ことに積極的である。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>職員は研修会等で知り合った他のグループホームの職員との交流やネットワークをつくり相互の情報交換を行っている。また、町内の介護施設職員間で行っている「としべつ道場」での勉強会や職員間の交流を通じてサービスの質の向上や、仕事の悩みなどの解消にもつながっている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>運営者と管理者、職員は風通しの良い職場環境づくりに努め、常に運営者に対する申し送りを大切にしている。勤務時間内の休憩には専門の休憩室を設け心身を休める場を確保している。職員親睦会での旅行やレクリエーションにより職員間のコミュニケーションを図っている。日常生活の話を聞いてもらったり、職員同士ストレス等の共有を話し合っている。</p>	
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>運営者は日々ホームに足を運び、また、ホーム内のことについて管理者から申し送りを受けており、職員の実績や勤務状況を把握している。研修に対しても職員の希望を受け入れるなど、職員の意見を聞く機会や職場づくりに配慮している。管理者が運営者に職員の努力を報告している。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>本人の不安を取り除くために、本人はもとより家族との会話や訪問を通じて、本人を受け入れることに努めている。日常生活の会話の中で話を聞くように心がけている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>家族間の思いの違いなど、利用にあたって本人や家族の困っていること悩んでいることにたいして、納得のいく説明とコミュニケーションを大切に家族を受け入れる努力をしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人や家族の希望や状況を踏まえて、日々の生活の中で本人、家族と職員がコミュニケーションを図り優先順位を把握することと、今金町や地域包括支援センター等の指導や助言を受け他のサービスの照会にも努めている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	本人や家族の意思を聞きながら、本人がゆっくり時間をかけ意思を伝えるような雰囲気づくりと相談をしている。本人が混乱を招かないように、家族より本人の生活履歴を基に本人の行動を共有し、職員の訪問や本人や家族がホームへ通うことや、体験入所をしてもらうなどの工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	アットホームな環境のなかで利用者の皆さんと共に過ごす時間を大切に、共に過ごす中で沢山の事を学び得ることがあります。本人の出来ること出来ないことを見極め、利用者一人ひとりの希望や意向を把握し出来ることは職員と一緒にいきます。例えば食事の準備は利用者から教わることもあります。職員と本人が共に喜怒哀楽を共有するよう努めている。誕生日や四季の行事など利用者と共に楽しく暮らしている。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	職員は常に家族とコミュニケーションをとり馴染みの関係を築いています。職員が一方的な介護にならないように、面会の時は利用者の状況を報告したり、家族の方の思いも踏まえて家族と共に本人の生活を支援しています。誕生日への家族の参加やくだもの狩り、すえひろ夏まつりなど家族が参加する機会を多くつくっている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	今までの生活歴や家族との関係をよく理解し、ホームでの生活の様子を報告しています。家族ケアも含めて利用者プラスになるよう働きかけ、面会時に家族とコミュニケーションを取る時間を作っている。年4回家族会を開催し家族間の交流と意見交換やホームに対する要望等を聞く機会をつくっている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ホームでは面会はいつでも可能であり、家族はもとより近隣の人の訪問もあります。また、外出や外泊も自由で、本人が暮らしていた住み慣れた家を訪れたり、昔からのかかりつけ医とのコミュニケーションも大切な役割を果たします。馴染みの友人や家族へ年賀を送っています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士での百人一首やかかるたなど、それぞれの役割分担を利用者同士で行っている。孤立したり、ぶつかり合っている場合は職員が唄を歌ったり話しをしたりし個別ケアに重点を置いています。時には他の利用者の発言や行動などで淋しい思いをしたり、傷ついたりしている利用者がある。	○	一人ひとり穏やかな気持ちで生活していくことができるようにフォローしていきたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退所後も本人に面会に行くなど、家族とも連絡をとりあったり付き合いを続けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	センター方式を使用して「私」という本人に置き換えて支援を考えて実行している。一人ひとりの生活スタイルや希望や意向を把握し職員全員で検討している。困難な場合は本人の状態や日頃の言動や様子から本人本位であるよう検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	職員が一人ひとりの生活歴などを、本人や家族と馴染みの関係を築き日々の暮らしのなかで把握している。	○	生活歴に関しては情報が少なく、これからセンター方式を使用し詳しく把握していきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	本人の状況を総合的に把握するために職員全員で毎日のバイタルチェックや伝達簿での申し送りなどを行い把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ユニット会議において職員全体でセンター方式を使用し、本人や家族の意見や意向を取り入れ、日々話し合いをし介護計画を作成しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	ユニット会議において職員全体で評価を行い、本人や家族の意見や意向を考慮して介護計画を策定しているが、状況によっては日々変化があり、伝達簿や家族、運営者に報告しケアプランの見直しを行っている。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	利用者の体調によって情報を伝達しながら、職員全体で情報を共有し取り組んでいる。個別記録の記入、日誌、伝達ノートへの記入で情報の共有は出来ている。それを基に日々の係わり方を考えながら実践している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	特に本人や家族の希望や要望を全て受け入れています。通院や買物、外出支援に努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	利用者への民生委員の訪問や、教会、民生委員の紙芝居やクリスマスの慰問などボランティアが毎年増えてきている。消防署の協力による避難訓練や救急時の応急手当の研修なども行っている。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	本人の意向により、日頃から地域包括支援センターや社会福祉協議会、保健師と連携を取り総合的な支援をできる体制づくりをしている。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	グループホーム内で解決できないことは普段から地域包括支援センターと連携を取りあっている。今金町認知症高齢者家族介護の会の運営や認知症サポート養成講座の開催など常に連携を図っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	あくまでも本人や家族の意向を踏まえて病院を選定している。もちろん古くからのかかりつけ医は大切に、本人が安心して受診できるように病院とホーム間での連携を築いている。また、定期的な受診も心がけている。今金町国保病院は顔馴染みの関係であり困ったときは電話でも相談の指導に乗ってくれる。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	認知症の専門医は八雲総合病院に在籍しており、職員が利用者を八雲総合病院の受診に同行したり、月に2回の今金町国保病院のサテライトの受診など、認知症に対する適切な指示や助言を受ける体制を作っている。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	今金町国保病院の看護職員とは常に連携を取っており、気軽に相談に乗ってくれたり、急病時の対応や指示をしてきている。また、小規模多機能の看護職員との連携も密にしている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	日頃から病院の医師や看護職員とは連携が取れており、入院時には職員が病院に足を運び家族の協力を得ながら早期退院に向けた連携を図っている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化や終末期に向けた対応については、本人や家族の意向は勿論のこと、医療関係者と十分に連携をとり話し合い、職員全体で方針を共有していきたい。	○	職員全体の話し合いがもう少し必要であり、一部の利用者との話し合いで終わり、全利用者の重度化や終末期に向けた話し合いが必要である。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	終末期に向けたケースに取り組んだことがあり、かかりつけ医と家族との連携を図りながら、家族と意思を共有し職員全体のチームワークが一つになった。今後もケース毎に取り組む準備を進めていく。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>本人がグループホームから移り住む場合は、本人や家族の状況を配慮し、これまでのケアや生活の様子や情報提供し、関係機関と協議しながら移り住むことのダメージを最小限に食い止めるよう配慮している。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>職員は利用者への穏やかな言葉かけや環境づくりに対応し、利用者の誇りを傷つけることの無いように十分注意している。運営者及び管理者は職員に対し常に個人情報の漏えい防止について説明をしている。</p>		
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>職員は利用者と常に馴染みの関係を築いており、本人の希望や思いを受け入れている。言葉では分からない場合はジェスチャーや分かりやすい言葉かけに努めている。利用者一人ひとりにあった働きかけをし、より良い生活が送れるよう支援しています。</p>		
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>ホームでは大まかな一日のスケジュールはあるが、個別ケアを重点に本人のペース(リズム)での生活を重視している。一人ひとりのペースで消灯時間や食事も決まった時間ではなく、その人のペースで食事をしてもらいます。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>身だしなみは本人の希望や要望に沿って行っている。髪形や服装、マニキュアは本人の希望の色を取り入れている。また、本人の目の行き届かないことについては支援するようにしている。理美容は本人の望む店ではないがボランティアで対応してその人に合ったカットをしている。</p>		
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>季節の食材や利用者の好みを取り入れながら利用者と職員と一緒に食事を準備をし一緒に食事をしている。時々行うバスハイクの際にはレストランでの食事や、食堂からの出前も取り入れている。お誕生会は特に本人の希望したメニューに対応している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	飲み物(コーヒー、ジュース、お茶、麦茶等)の確保。くだものやお菓子を購入し準備をしている。本人の嗜好に合わせて、煙草やおロナミンCを飲んでいる。すえひろ夏まつりや誕生会など行事がある時はビールやお酒も飲んでいる。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	個別ケアに取り組み、声かけや本人の様子を観察したり、排泄状況の記録を取りできるだけオムツを使用しないように、トイレでの排泄に取り組んでいる。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	毎日入浴できるようにし、希望の利用者が入るようにしている。入りたくない時は無理に勧めない。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	本人のリズムや生活の過ごし方を把握し安眠や休息の支援をしている。その時の状況に合わせて小上がりやソファで横になったり個々のリズムに合わせた休息をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人ひとりにあった楽しみや役割を大切に生活を支援している。百人一首の読み手をしたり、書道の上手な人は書道をしている。おしぼり洗いやおしぼりたたみ、洗濯物のたたみを手伝ってもらっている。バスハイクやカラオケ、町内のイベントへ参加し楽しんでいる。		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	全員ではないが、自分で金銭を管理できる利用者は、ちょっとした買物にも出かけるように支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気の良い日は全員でホームの前のオランダ通りの散歩をして近所の人との交流も図れている。また、バスハイクなど月に1回程度海や山に出かける機会を作っている。病院の受診後にも本人の希望によりAコープやテーオーストアに買物に寄ったりしている。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	海や山へのバスハイクや、年に1度の家族との「くだもの狩り」を行っている。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族から電話が来たときは本人に代わり電話にでていただく。職員が家族に電話をかけたり、年賀状や寒中見舞い、暑中見舞いを出す支援をしている。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	ホームはいつでも面接や訪問が自由で、家族はもとより誰でも気軽に立ち寄れるような環境づくりをしている。利用者と一緒にゲームをしたりお茶を飲んだり自由に過ごせるようにしている。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	全職員が身体拘束をしなことを共有しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	ホームは面会や地域の方々への訪問は自由であり、いつでも地域の人を訪れるよう鍵をかけないケアに努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	本人のプライバシーに配慮し、全員の様子をさりげなく常に見守っている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	洗剤や刃物、薬等の注意が必要な物品については、全職員が注意を払い危険防止に取り組んでいる。一人ひとりに応じ危険な場合は本人に話して納得していただいた上で管理している。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	服薬時の誤薬や転倒、火災など全職員が事故防止に取り組んでいる。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	急変や事故発生に備え、毎年消防署の協力を得て応急処置研修会を実施している。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防署の協力を得て、毎年避難訓練や応急処置の研修を行っているが、職員と利用者だけで実施しているので、これからは近所の住民の協力をいただき避難訓練を行ってきたい。	○	災害時に向けた取り組みとして、近所(町内会)の人の協力やその時の連絡網の見直しも必要です。これからの避難訓練には町内会へも協力要請をし、職員と共に利用者の誘導や協力体制を築いていきたい。災害発生時に備えて、食料品や飲料水、寒さをしのげるような物品の準備にも取り組んでいきたい。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	本人や家族と普段から馴染みの関係を保ち、利用者に予測されるリスクについて家族等と率直に話し合っている。ケアプランにリスクを導入している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	早期発見に努め、毎日のバイタルチェック、顔色の様子や異変がないか気をつけ、職員間の連絡、引継ぎを徹底している。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	職員一人ひとりが薬の目的や副作用、用法や用量を理解し、飲み忘れや誤薬を防ぐための見守りや介助をしている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	便秘の予防については、一人ひとりに合わせた水分補給やくだもの野菜の摂取をするなど、生活の中で状況や排便の日数を確認しながら取り組んでいる。適度な体操や歩行運動、ゲームも取り入れている。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	職員は口腔ケアの必要性は十分理解しており、昨年度は2回保健所の指導を受けて研修会を実施した。洗顔後のケア、食後のケア(歯・舌など)の口腔ケアを実施している。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養士によるカロリー計算や献立を基に料理を作っている。全員の水分補給はチェックはしていないが、日頃の習慣やバランスを見ながら対応している。無理に食べさせるのではなく、一人ひとりにあった量、習慣に応じ食事を工夫し食べやすく支援している。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを作成し感染症予防に取り組んでいる。塩素消毒、手洗いうがい、マスク、手袋(調理・汚物)、インフルエンザの予防接種を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食材は毎日職員が目目で新鮮な物を購入している。台所用具のふきん類の消毒、冷蔵庫の整理、まな板の消毒、食卓テーブルの塩素消毒を心がけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関の前にはプランターやラティスを利用し花を植えている。建物の中庭には利用者による農園をつくり、トマトやきゅうり等の野菜を作っている。冬季間は玄関が滑りやすくなるので、その都度雪かきをして滑らないようにしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者が居心地よく過ごしていただくために、職員と利用者で季節感を取り入れるなど工夫を凝らしている。畳の小上がりは利用者の休息やみんなで集る良い空間になっている。トイレに利用者の写真の入ったカレンダーを貼ったり、廊下には利用者の写真を貼り、季節の絵を貼っている。ホーム内の換気や音、光などに対しては職員が注意を払っている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	畳の小上がりは、一人になったり二～三人で過ごせる最高の場所である。一人ひとり自分の気に入った場所で過ごせるように支援している。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室は本人や家族と相談しながら、本人が自宅で使っていた物を持ってきていただいたり、安心して過ごすことができるよう個別に応じた工夫をしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	職員は一人ひとりの状態を見ながらこまめに保湿タオルをかけたり、換気や空調、温度管理に努めている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	廊下やホールには手摺が設置している。ホール内が狭く場所の取り合いはあるが、それぞれ好きなように生活をしている。		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	一人ひとりの力の発揮はできるだけ活かされるように対応している。狭い空間の中でトイレやカレンダー等認識しやすく工夫している。		
87	<p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	洗濯物干しや中庭での野菜作りを職員と利用者と共にやっている。ベランダではベンチに座り日向ぼっこをしている。		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ① <input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 ② <input type="radio"/> 利用者の2/3くらい ③ <input type="radio"/> 利用者の1/3くらい ④ <input type="radio"/> ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> ① <input checked="" type="radio"/> 毎日ある ② <input type="radio"/> 数日に1回程度ある ③ <input type="radio"/> たまにある ④ <input type="radio"/> ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ① <input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 ② <input type="radio"/> 利用者の2/3くらい ③ <input type="radio"/> 利用者の1/3くらい ④ <input type="radio"/> ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> ① <input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 ② <input type="radio"/> 利用者の2/3くらい ③ <input type="radio"/> 利用者の1/3くらい ④ <input type="radio"/> ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> ① <input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 ② <input type="radio"/> 利用者の2/3くらい ③ <input type="radio"/> 利用者の1/3くらい ④ <input type="radio"/> ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> ① <input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 ② <input type="radio"/> 利用者の2/3くらい ③ <input type="radio"/> 利用者の1/3くらい ④ <input type="radio"/> ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ① <input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 ② <input type="radio"/> 利用者の2/3くらい ③ <input type="radio"/> 利用者の1/3くらい ④ <input type="radio"/> ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> ① <input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての家族 ② <input type="radio"/> 家族の2/3くらい ③ <input type="radio"/> 家族の1/3くらい ④ <input type="radio"/> ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<ul style="list-style-type: none"> ① <input checked="" type="radio"/> ほぼ毎日のように ② <input type="radio"/> 数日に1回程度 ③ <input type="radio"/> たまに ④ <input type="radio"/> ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

（日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載）理念のとおり、安らぎ・自由・その人らしさを大切にしている。職場も明るく本当に温かみのあるグループホームだと思う。そうあるよう努める。